

在外日本古美術品保存修復協力事業 (②セ04-13-3/5)

目 的

日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、これらの保存修復の専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、海外で所蔵されている掛軸などの紙本絹本文化財および漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び修復して返還することを目的としている。また、ワークショップを開催し保存修復に必要な日本の文化財に対する理解の深化、修復技術の移転を行う。

成 果

1. 作品修復

- ・キンベル美術館（アメリカ）所蔵 二十五菩薩来迎図 絹本着色 掛軸装2幅 修復終了。
- ・シンシナティ美術館（アメリカ）所蔵 源氏物語図屏風 紙本着色 屏風装6曲1隻 修復終了。
- ・ブロッツワフ国立博物館（ポーランド）所蔵 五十嵐道甫作 秋野蒔絵硯箱1合 修復中。

2. 調査

グルジア：国立美術館（トビリシ）。スペイン：スペイン国立装飾美術館（マドリッド）、サラゴサ博物館（サラゴサ）。フランス：ギメ美術館（パリ）。スペイン：スペイン国立図書館、国立近代美術館、国立工芸美術館、国立文化遺産機構（マドリッド）。ドイツ：ドレスデン陶磁器博物館（ドレスデン）。オーストリア：ウィーン工芸大学（ウィーン）。

3. ワークショップ

- ・Workshops on Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk、場所 ベルリン国立博物館 連合・アジア美術館（ベルリン・ドイツ）：(Workshop 1) “Basic -Japanese paper and silk cultural properties-”、2013（平成25）年7月3日～5日、参加者19名。(Workshop 2) “Advanced -Restoration of Japanese folding screen”、2013（平成25）年7月8日～12日、参加者10名。
- ・Workshops on the Conservation and Restoration of Urushi (Lacquer ware)、場所 ケルン市博物館 連合・ケルン東洋美術館（ケルン・ドイツ）：(Workshop I-a) 2013（平成25）年11月14日～15日、参加者5名。(Workshop I-b) 2013（平成25）年11月16日、参加者6名。(Workshop III) 2013（平成25）年11月19日～22日、参加者6名。(Workshop IV) 2013（平成25）年11月26日～29日、参加者6名。

発表

- ・山下好彦、川野邊渉「Pressurizing and supporting techniques for damaged laquer objects」Asian Laquer Symposium 2013（バッファロー州立大学、アメリカ合衆国ニューヨーク州） 13.4.20-26
- ・楠京子、山田祐子、君嶋隆幸、加藤雅人「紙本作品における酵素の除去確認方法について」文化財保存修復学会第34回大会（東北大学百周年記念館川内萩ホール） 13.7.20
- ・加藤雅人「在外日本文化財の保存と修復」What should we do with overseas Korean cultural property（韓国国立博物館） 13.12.14

刊行物

- ・『コーカサスに渡った日本美術作品ーアルメニア国立美術館所蔵「名区小景」調査報告書』 東京文化財研究所 14.3

研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、江村知子、山下好彦、楠京子、山田祐子、境野飛鳥、川端冴子、山之上理加（以上、文化遺産国際協力センター）、早川典子（保存修復科学センター）、田中淳、綿田稔、塩谷純、皿井舞、城野誠治（以上、企画情報部）、今城裕香、深井啓、樋田真理（以上、研究支援推進部）